



2024年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年5月14日

上場会社名 東海汽船株式会社 上場取引所 東
コード番号 9173 URL <https://www.tokaikisen.co.jp>
代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山崎 潤一
問合せ先責任者(役職名) 取締役 管理本部長 (氏名) 倉崎 嘉典 (TEL) 03-3436-1131
四半期報告書提出予定日 2024年5月15日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第1四半期の連結業績(2024年1月1日~2024年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第1四半期	3,134	4.5	△153	—	△161	—	△134	—
2023年12月期第1四半期	2,998	6.3	△199	—	△214	—	△174	—

(注) 包括利益 2024年12月期第1四半期 △62百万円(—%) 2023年12月期第1四半期 △134百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第1四半期	△61.35	—
2023年12月期第1四半期	△79.57	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年12月期第1四半期	22,788	5,814	18.9
2023年12月期	22,480	5,876	19.5

(参考) 自己資本 2024年12月期第1四半期 4,303百万円 2023年12月期 4,390百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	—	—	0.00	0.00
2024年12月期	—	—	—	—	—
2024年12月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は12月31日を期末配当基準日と定めておりますが、現時点では期末配当予想額は未定であります。

3. 2024年12月期の連結業績予想(2024年1月1日~2024年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,770	11.0	△680	—	△710	—	△410	—	△186.81
通期	15,120	14.8	300	—	240	—	180	—	82.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 社(社名) 、除外 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2024年12月期1Q	2,200,000株	2023年12月期	2,200,000株
2024年12月期1Q	5,291株	2023年12月期	5,291株
2024年12月期1Q	2,194,709株	2023年12月期1Q	2,194,709株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・期末配当予想につきましては、今後も経営環境に不確定要素が多いため、現段階では前回発表と同様に未定とさせていただきます。なお、予想額は当社最多客期の第3四半期以降、状況を見極め速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益や個人消費は総じて改善し、景気は緩やかに回復しています。先行きについては、雇用・所得環境が改善する中で、景気が本格的に回復していくことが期待されます。ただし、中東情勢等による不透明感が見られる中で、原油価格の高止まり、物価上昇、為替変動、供給面での制約等による影響に十分注意する必要があります。

当第1四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、アフターコロナに移行後半年以上が経過し、観光需要は回復傾向にありますが、前年同期比では、乗船客数及び関連する大島島内でのホテルやバスなどの利用客数は増加したものの、コロナ禍以前との比較では9割弱の水準に留まり、経営に影響を与えています。また、貨物輸送量においては、前年同期と比べ微減で推移しています。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、乗船客数の増加等により売上高は31億3千4百万円（前年同期29億9千8百万円）、費用面で船舶修繕費等の増加がありましたが、営業損失は1億5千3百万円（前年同期営業損失1億9千9百万円）、経常損失は1億6千1百万円（前年同期経常損失2億1千4百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億3千4百万円（前年同期純損失1億7千4百万円）と厳しい経営状況が続いております。

このため、本年5月より主力の伊豆諸島航路の運賃改定を行い、抜本的な経営改善を図ることと致しました。

なお、当社グループは、2024年の事業の活性化策として、「One Team 東海汽船グループ 2024」を掲げ、この困難な状況を当社グループの様々な関係者と手と手を取り合い、「One Team」となって乗り越えるよう全従業員が意識を共有してまいります。

セグメントごとの経営成績は、次の通りです。

《海運関連事業》

主力の伊豆諸島航路の旅客部門は、大島の最大イベント「椿まつり」において、個人向け商品の営業を強化したほか、高速ジェット船の臨時運航（千葉～大島、横浜～千葉）、横浜～東京の夜景クルーズや行先当日告知の「ミステリーきっぷ」をはじめとした企画商品や、自然環境型観光をテーマとした新たなツアーを実施し、集客に努めました。小笠原航路については、前年同期には実施していた事前のPCR検査や2等和室の席数制限がなくなり、また募集団体の増加等もあり、乗船客数は増加しました。

乗船客数は16万1千人（前期15万人）と増加しましたが、本来の計画には及びませんでした。また、貨物部門は、引き続きお客様の利便性と集荷効率の引き上げを図り、集荷に遺漏がないように取り組み、国等の補助金を得て製作した冷凍・冷蔵コンテナを最大限活用し、貨物輸送の品質向上に努めました。貨物取扱量は、工事関連品目においてやや増加したものの、生活関連品目はやや減少し、全島で7万2千トン（前期7万6千トン）となりました。

この結果、当事業の売上高は、27億4百万円（前年同期25億7千5百万円）、営業損失は7千2百万円（前年同期営業損失1億9百万円）となりました。

《商事料飲事業》

商事部門は、関係先と連携を密にし工事情報を積極的に収集するなど販売強化に取り組みましたが、公共工事等の遅れから島しょ向けセメントや燃料販売等が減少しました。料飲部門は、自販機ビジネスの委託化や冷食自販機の導入等を行いました。なお、商事部門は、島しょ向け生活通販「ショップ東海」と島産品の全国向け販売「島ぼち」のECサイトにより、島民の皆さまの利便性向上と物流の活性化に取り組み、またコンテナ販売等の新規ビジネスに注力しています。

この結果、当事業の売上高は2億8千5百万円（前年同期3億5百万円）とやや減収となりましたが、委託手数料収入の増加等により、営業利益は1千8百万円（前年同期1千6百万円）と増益となりました。

昨年4月に、商事料飲事業を担当する事業本部を組織改編し、旅客部門・貨物部門に続く第三の収益の柱となるべく取り組んでいます。

《ホテル事業》

大島温泉ホテル事業は、大島の豊富な海の幸の料理・高品質の源泉掛け流し温泉・露天風呂からの三原山の眺望など、「島の魅力」を前面に押し出した営業活動を行いました。また、大島の最大イベント「椿まつり」において観光客が回復傾向にあることから、個人向け宿泊プランを中心に造成し集客に努めた結果、宿泊客は増加し、客室稼働率は上昇しました。

この結果、当事業の売上高は1億2百万円（前年同期8千8百万円）、費用面において労務費等の見直しを進めた結果、営業利益は1千5百万円（前年同期0百万円）と増収増益となりました。

《旅客自動車運送事業》

当事業の中心となる大島島内におけるバス部門は、お客様に安心してご乗車いただくため、「安全運行」と「良質のサービスの提供」を基本理念とした安全方針に基づき、全社一丸となって安全運行に取り組んでおり、貸切バスにおいては、日本バス協会の安全性評価制度における最高評価となる三ツ星を更新するなど長期優良事業者として認定を受けております。大島の最大イベント「椿まつり」において観光客が回復傾向にあることから、路線バスや貸切バスの需要も前年を上回りました。

この結果、当事業の売上高は8千5百万円（前年同期7千5百万円）、営業利益は1千7百万円（前年同期9百万円）と増収増益となりました。なお、定期路線バスにおいては大島町から継続的な支援を受けております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債および純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は22億7千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億8百万円増加しました。その主な要因は、現金及び預金が3億3千6百万円、投資有価証券が6千4百万円、繰延税金資産が8千3百万円増加した一方で、船舶の減価償却などにより有形固定資産が2億7百万円減少したことによるものです。

負債は16億9千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億7千万円増加しました。その主な要因は、借入金金が2億6百万円、賞与引当金が1億1千9百万円増加したことによるものです。

純資産は5億8千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ6千2百万円減少しました。その主な要因は、利益剰余金が1億3千4百万円減少した一方で、その他有価証券評価差額金が4千7百万円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年12月期の業績予想につきましては、2024年2月15日公表の数値に変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,355	4,691
受取手形、営業未収金及び契約資産	1,645	1,602
商品及び製品	72	65
原材料及び貯蔵品	802	817
その他	227	281
流動資産合計	7,103	7,459
固定資産		
有形固定資産		
船舶	21,330	21,311
減価償却累計額	△9,070	△9,347
船舶（純額）	12,260	11,964
建物及び構築物	2,589	2,643
減価償却累計額	△1,314	△1,323
建物及び構築物（純額）	1,275	1,319
土地	296	296
建設仮勘定	40	40
その他	1,977	2,034
減価償却累計額	△1,801	△1,815
その他（純額）	175	219
有形固定資産合計	14,048	13,840
無形固定資産		
投資その他の資産	72	78
投資有価証券	431	496
繰延税金資産	694	777
その他	135	140
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	1,256	1,410
固定資産合計	15,376	15,329
資産合計	22,480	22,788

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	1,009	995
短期借入金	3,826	4,325
未払法人税等	11	52
賞与引当金	39	159
その他	615	673
流動負債合計	5,503	6,206
固定負債		
長期借入金	8,981	8,689
退職給付に係る負債	1,573	1,490
特別修繕引当金	486	530
その他	59	57
固定負債合計	11,100	10,768
負債合計	16,603	16,974
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,100	1,100
資本剰余金	693	693
利益剰余金	2,452	2,318
自己株式	△10	△10
株主資本合計	4,235	4,101
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	154	201
その他の包括利益累計額合計	154	201
非支配株主持分	1,485	1,510
純資産合計	5,876	5,814
負債純資産合計	22,480	22,788

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)
売上高		
海運業収益	2,555	2,682
その他事業収益	442	451
売上高合計	2,998	3,134
売上原価		
海運業費用	2,412	2,506
その他事業費用	416	396
売上原価合計	2,828	2,903
売上総利益	169	230
販売費及び一般管理費	368	384
営業損失(△)	△199	△153
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	0
補助金収入	6	14
賃貸料	3	3
その他	8	9
営業外収益合計	18	27
営業外費用		
支払利息	32	33
その他	1	1
営業外費用合計	34	35
経常損失(△)	△214	△161
特別利益		
国庫補助金	—	187
特別利益合計	—	187
特別損失		
固定資産圧縮損	—	186
特別損失合計	—	186
税金等調整前四半期純損失(△)	△214	△160
法人税、住民税及び事業税	55	50
法人税等調整額	△121	△101
法人税等合計	△65	△51
四半期純損失(△)	△149	△109
非支配株主に帰属する四半期純利益	25	24
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△174	△134

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)
四半期純損失(△)	△149	△109
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15	47
その他の包括利益合計	15	47
四半期包括利益	△134	△62
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△159	△87
非支配株主に係る四半期包括利益	25	25

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	海運 関連事業	商事 料飲事業	ホテル 事業	旅客自動車 運送事業	合計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	2,344	280	88	59	2,772	—	2,772
その他の収益(注)3	211	—	—	14	226	—	226
外部顧客への売上高	2,555	280	88	73	2,998	—	2,998
セグメント間の 内部売上高又は振替高	20	25	0	1	47	△47	—
計	2,575	305	88	75	3,046	△47	2,998
セグメント利益又は損失(△)	△109	16	0	9	△83	△115	△199

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△115百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△116百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3 「その他の収益」は、事業活動の維持に必要な補助金収入等であり、「収益認識会計基準」で定める顧客との契約から生じる収益の額に含まれない収益であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	海運 関連事業	商事 料飲事業	ホテル 事業	旅客自動車 運送事業	合計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	2,390	269	102	61	2,824	—	2,824
その他の収益(注)3	292	—	—	17	309	—	309
外部顧客への売上高	2,682	269	102	79	3,134	—	3,134
セグメント間の 内部売上高又は振替高	21	16	0	5	43	△43	—
計	2,704	285	102	85	3,178	△43	3,134
セグメント利益又は損失(△)	△72	18	15	17	△20	△133	△153

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△133百万円には、セグメント間取引消去△3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△130百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3 「その他の収益」は、事業活動の維持に必要な補助金収入等であり、「収益認識会計基準」で定める顧客との契約から生じる収益の額に含まれない収益であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。